

質問

70代の男性です。検診で精密検査が必要といわれたため受けたところ、肺がんが見つかりました。幸い早期がんで、完治する可能性が高いと、胸腔鏡手術を勧められました。ただ、手術は初めてなので不安があります。安全に受けられるのでしょうか？

肺がんの胸腔鏡手術は安全か



広瀬 敏幸
県立中央病院
外科部長

回答

肺がんの治療には、手術、抗がん剤、放射線治療などがあり、これらを組み合わせで行います。質問の患者さんは早期がんとのこと、手術だけで完治する可能性があると思われま

す。肺は、右側が三つの肺葉、左側が二つの肺葉に分かれています。手術では、がんのある肺葉ごとに切除するのが一般的です。しかし、がんの部位によっては二つの肺葉や片肺全部を取ることが避けられないケースがあります。もともと肺機能が悪い患者さんは、手術後の肺機能を温存するために切除範囲を小さくする場合もあります。従来の開胸手術では、

減軽負担への体小さく傷



胸の横を約30センチ切り、肋骨も切断して行いました。

1990年代に、傷が小さく、体への負担が少ない胸腔鏡という直径10センチ程度の内視鏡を使った手術が普及してきました。

胸の脇に2センチ程度の穴を3、4カ所開け、胸腔鏡を挿入して別の穴から「かんし」という細長い器具を挿入する方法です。開胸手術に比べて痛みも少なく、患者さんに優しい手術です。

当初は気胸などを対象としていた胸腔鏡手術は、徐々に保険の適用範囲が広がり、肺がんの手術にも適用されます。2013年度の国内の肺がん手術は約3万7千件

で、そのうちのほぼ7割は胸腔鏡を使った手術です。

胸腔鏡手術は傷が小さく回復が早いばかりか、手術後の合併症が少なく、予後（術後にどれだけ長生きできたか）も良いとの調査結果があります。ただ、傷の痛みについては、長期的には開胸手術と変わらないとのデータもあり、本格的な比較試験はされていないのが現状です。

また、全ての肺がんで胸腔鏡手術ができるとは限りません。がんの大きさや場所によっては開胸手術が適している場合もあります。胸腔鏡手術中に思わぬ出血を来した場合は、胸腔鏡手術を継続するかの判断も重要になります。場合によっては、すぐに開胸手術に切り替えないと出血多量の恐れもあるからです。

内視鏡手術は、危険ではありません。使用する器械は日々進歩してお

がんに関する質問は徳島がん対策センター〈電088(634)6442〉(平日午前8時半から午後5時まで)にお寄せください。詳しくはセンターのホームページ〈http://www.toku-gantaisaku.jp〉をご覧ください。

り、最近では内視鏡の画面を映し出すモニター画像も、とても鮮明になっています。一方で、穴から挿入した器械は可動性が制限され、あまり拡大すると周りが見えなくなるなどの難点もあります。しかし、欠点を十分に理解して対処すれば安全性は劣りません。

主治医に時間をかけて十分に説明してもらい、質問があれば事前にメモしておくことよいでしょう。また、かかりつけ医やセカンドオピニオン(第二診断)に聞いてみる方法もあります。

肺がんといわれ、初めての手術に不安な気持ちがよく分かります。ですが、早期発見ができたことで治療する可能性が高まったと考え、前向きに治療に臨まれることを期待します。

(第4土曜掲載)

理解深め前向きに治療を